

余暇活動参加率は「国内観光旅行」が 3 年連続 1 位 「余暇重視派」が過去最高を更新 「レジャー白書 2025」（速報版）を公表

調査研究や提言、実践活動により生産性向上をめざす公益財団法人 日本生産性本部（東京都千代田区、理事長：前田和敬）の余暇創研は、7 月 15 日、「レジャー白書 2025」（速報版）を公表しました。これは、今年 10 月に発行予定の「レジャー白書 2025」の取りまとめに向けて実施した 2024 年の余暇活動に関する個人の意識や参加実態に関するアンケート調査の結果を、速報版として公表するものです。本調査は、今年 2 月にインターネットを通じて実施し、全国の 15 ～79 歳の男女、3,467 人から有効回答を得ました。本調査のポイントは以下の通りです。詳細は別紙をご参照ください。

●仕事より余暇を重視する「余暇重視派」が過去最高を更新（別紙 p.5）

- ・仕事（勉強や家事を含む）と余暇のどちらを重視するかを尋ねたところ、余暇重視派（「仕事よりも余暇の中に生きがいを求める」「仕事は要領よくかたづけて、できるだけ余暇を楽しむ」の合計）が 67.8%と過去最高を更新。特に「仕事よりも余暇の中に生きがいを求める」割合が 2021 年以降増加しており、37.8%とこちらも過去最高を更新した。

●余暇活動参加率では、「国内観光旅行」が 3 年連続 1 位（別紙 p.7-8）

- ・余暇活動の参加率は「国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）」が、48.3%で 3 年連続の 1 位。前年（48.7%）から横ばいで推移。ただし、コロナ禍前の 2019 年（54.3%）より低い。
- ・2 位は「動画鑑賞（レンタル、配信を含む）」（38.1%）で前年から 1.1 ポイント増。順位を 1 つ上げたが、1 位となった 2020 年（39.4%）より低い。一方、前年 2 位の「外食（日常的なものは除く）」は 3.6 ポイント減少し 3 位。4 位、5 位はともに前年に引き続き「読書（仕事、勉強などを除く娯楽としての）」「音楽鑑賞（配信、CD、レコード、テープ、FM など）」となった。
- ・男女別でみると、男女ともに「国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）」が 1 位だが、参加率はいずれも前年よりわずかに低下。

●潜在需要では、「海外旅行」が前年に引き続き 1 位（別紙 p.10）

- ・各種目の希望率と参加率の差を「潜在需要」として算出したところ、1 位が「海外旅行」、2 位が「国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）」と、前年同様の結果となった。ただし、「海外旅行」は前年より 3.9 ポイント、「国内観光旅行」は前年より 0.6 ポイント減少。いずれも前年より希望率が低下したことにより潜在需要が低下。

●一人当たりの平均参加種目数は 10.4 種目から 10.2 種目に微減（別紙 p.11）

- ・一人当たりの平均参加種目数は 10.2 種目。コロナ禍の 2020 年（9.9 種目）、2021 年（9.7 種目）、2022 年（10.1 種目）より微増したものの、前年 2023 年（10.4 種目）からは微減。また、2019 年（12.3 種目）よりは低い。

本調査結果の内容は、今年 10 月発行予定の「レジャー白書 2025」にも掲載する予定です。

■別添：「レジャー白書 2025」（速報版）詳細資料

「レジャー白書」サイト <https://www.jpc-net.jp/research/list/leisure.html>

本件に関するお問合せ先： 公益財団法人日本生産性本部

<内容>余暇創研 長田 Tel：03-3511-4011/e-mail：yoka@jpc-net.jp

<取材>広報戦略室 伊藤、粕谷、鈴木（彩） Tel：03-5511-2029/e-mail：jpcpr@jpc-net.jp